

令和7年度 第1回学校運営協議会（コミュニティスクール） 報告

1. 日 時：令和7年5月30日（金） 午前9時30分から11時30分まで
2. 場 所：静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校
3. 出席者：島田 晴夫 様 （元伊東市立中学校教諭）
荻野 耕介 様 （伊豆介護センター）
田畑まどか様 （特定非営利活動法人 絆翔 代表）
辻 恵 様 （多胎育児支援サークルふくまめピアサポーター代表）
大川 直子 様 （本校 PTA 会長）
学校：佐々木雅則（校長）、三田 薫子（教頭）、小松 真理（高等部主事）、
佐藤 弘康（教務課長）
4. 内 容 司会（小松） 記録（佐藤）

(1) 委任

(2) 校長あいさつ

(3) 学校運営協議会委員紹介

(4) 今年度の分校運営計画

○社会に出ていく中で必要な力を育てるための取り組み目標10項目と以下の4つについて説明

- ・「安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得」
…生徒理解、支援方法の職員研修や緊急時に適切に対応できるための職員研修を行っていく。
- ・「生徒が主体的に学べる授業づくり」
…生徒が学習意欲を喚起させる支援の工夫や効果的に ICT を活用していく。
- ・「併設校、地域との共生共育の推進」
…統合して3年目、これまでの実践を踏まえながら、現状に合った交流の企画、実施をしていく。
- ・「充実した業務ができる職場環境の構築」
…放課後の会議を精選し、ケース会議や教材研究の時間などを確保する。
ICT を有効に使い教職員の業務軽減に努める。

(5) 意見交換

○最近の特別な支援を要する児童生徒について

- ・宇佐美中学校にも特別支援学級ができ、宇佐美地区は小中1クラスずつとなり特別支援学級が増えてきている。市内の状況を見ても小中学校は人数が減り、統合が進んでいるが、支援学級は増えてきている。



- ・静岡県では、特別支援学校に通っている児童生徒は徐々に増えてきてはいたが、5,000人ほどで高止まり状態である。
しかし内訳では、視覚、聴覚、肢体の児童生徒は地域の学校に行くようになり、減少傾向。知的(特に高等部)が増えてきている。
静岡県の高等部の就職率はトップクラス。そのおかげで、特別支援学校に行かせたい保護者も増えてきているのではないかな。

○情報リテラシーについて

- ・スマホを利用した犯罪防止の指導は？

→・高等部に入学するにあたり形態を持つ生徒は多く、同時にトラブルが増えて
いる実情はある。その都度指導するとともに、積極的に外部講師を招いて
話をしてもらうことで注意喚起に取り組んでいる。

- ・被害者だけではなく、本人の意図しないところで加害者になってしまっている
こともある。そうならないための取り組みは？

→・情報が入った時にその都度指導をしている。本人にはその気はないが誤解さ
れやすい行動をしないように指導している。

○共生共育について

- ・3年がたつが毎年上手にかかわっていると感じる。

→・年度初めに、本校のコーディネーターが伊豆伊東高校で1年生を対象に共生共
育ガイダンスを毎年行っている。同じ校舎で学んでいる仲間であると少し
でも理解が進むと良い。

(5) 本校のコンプライアンス対応について

○「不祥事根絶取組計画」を作成

- ・「風通しの良い職員室」「笑顔あふれる職員室」を推進
- ・不祥事を他人事と思わず、身近で起きているという意識で不祥事根絶を目指す
- ・小さな変化を見逃さず、問題が小さいうちにみんなで共有できる雰囲気作り
を目標に毎月テーマを決めて実施していく。気づいたときにお互い声をかけあ
える(注意)職場に。

○各事業所での取り組み

- ・利用者や、その家族などが理不尽な要求、問い合わせがきても毅然とした態
度で対応をする。できることと、できないことをはっきりと伝えるよう心掛
けている。
- ・月に1回ミーティングを行いスタッフ間でコミュニケーションを取り合うよう
にしている。

○人権教育について

- ・生徒間の人権についてどのような取り組みをしているのか。

→・月に1回程度「道徳」の授業を設定している。また、生徒間でトラブルがあっ
た時にはその都度指導をすると共に道徳の教材に盛り込みながら全体に指導
をしている。

いじめに対しては対策をホームページに掲載している。人権教育については
学校全体計画が作成されている。

(6) 碧春祭 校内発表参観(太鼓演奏)

感想

- ・生徒が非常に頑張っている。分校の生徒の頑張りをもっと地域の人たちに見て
もらいたい。地域の人たちと一緒に何か取り組んで知ってもらえる場を増やし
たい。
- ・各作業班のCMがよかった。

- ・太鼓は伝統になっている。ぜひ今後も続けてほしい。
- ・太鼓に参加していない生徒も応援をしているのが良かった
- ・伊豆伊東の生徒も一緒になって一体感があった。
- ・生徒間(伊豆伊東の生徒)の距離が近く感じた。
- ・司会を一緒にやっていて、伊豆伊東の生徒がフォローしていたが関りが自然であった。

会の様子



【委任の様子】



【校内発表を参観】